

第23回全日本大学選手権大会

昭和63年8月19日(金)〜22日(月)
福岡県大川市・筑後川総合運動公園

男子―日ソ協記録委員長 石黒義也
女子―日ソ協記録委員 長縄雅誠

男子、日体大が3連覇 女子、園田学園女子大が5年ぶりに制覇

第23回全日本大学ソフトボール選手権大会は、8月19日から22日まで、福岡県大川市筑後川総合運動公園で行われ、男子28チーム、女子20チームが出場して覇を競った結果、男子は日本体育大学が3年連続18回目の制覇、女子は園田学園女子大学が5年ぶり2度目の優勝を飾った。

開会式は、前回優勝の日本体育大学女子チームを先頭に女子からの入場行進で始まり、続いて男子も同大学をトップに行進。歓喜の拍手が沸く中、全チームが勢ぞろいした。

その中で、実行大会副委員長が弘瀬会長のメッセージを伝えた。

会場となった大川市は、北九州の穀倉地帯・筑紫平野を流れる筑後川の有明湾河口に位置する人口5万人の緑に囲まれた田園都市で、450年の歴史



を刻む木工の街として栄えた。製品の「大川家具」は全国に知れわたっている。筑後川は九州第一の大河で「筑紫次郎」の異名を持ち、全長143kmの水量豊かな「あばれ川」である。水源は

九重、阿蘇火山群で、大分・福岡県境の山地を縫って流れ出た河口の左岸に、みごとに整地された16面の河川敷グラウンドが、若人の熱戦の場となった。

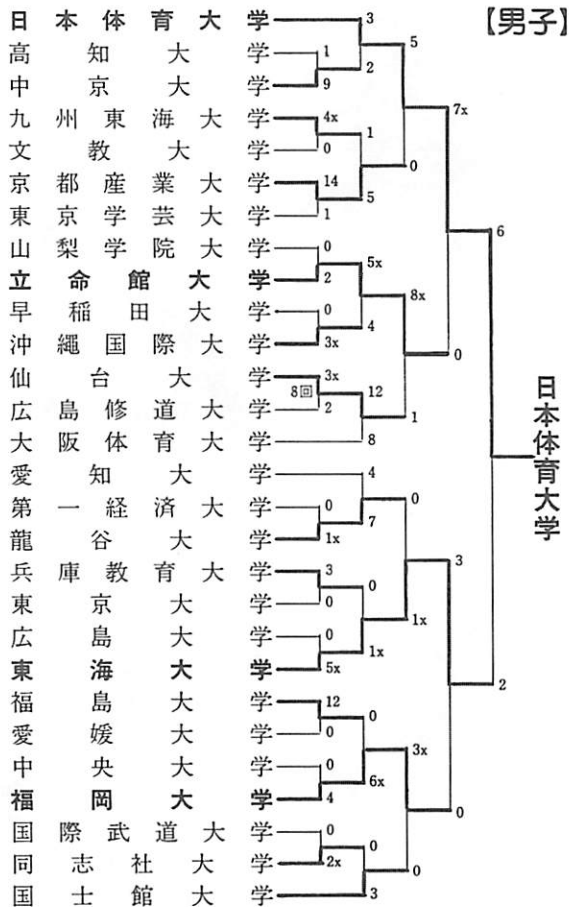
街を歩けば家具工場のたくましい息吹が感じられるこの地で、3年後「とびうめ国体」のソフトボール競技が行われることになっている。今大会は国体のリハーサル大会を兼ねて運営され、関係筋の万全な支援体制は遠来の選手に深い感銘を与えた。

連日、白熱したプレーを展開。会場には4日間で2万人を超えるファンがつめかけ、ハイレベルの試合に盛んな声援を送り、選手の健闘をたたえた。

個人表彰

- ☆最高殊勲選手 谷田圭司(日体大) 打率 0.692
- ☆最優秀打撃賞 谷田圭司(日体大) 打率 0.692 (13打数9安打)
- ☆最優秀投手賞 大村明久(日体大) 防御率 0.636、3勝0敗
- ☆優秀選手賞 野崎明宏(東海大) 島村正行(日体大)

【男子】



東女体大の記録更新

女子準々決勝の東女体大―埼玉大戦で東女体大は35対0で大勝した。これは同大会の1試合最多得点では新記録。これまでの記録は第20回大会で両校が対戦したときの24点（東女体大24―0埼玉大）が最高。

また1回表、1イニングに連続8安打と、本塁打、三塁打、二塁打、単打とすべての安打が出たのも記録。

◆東女体大の

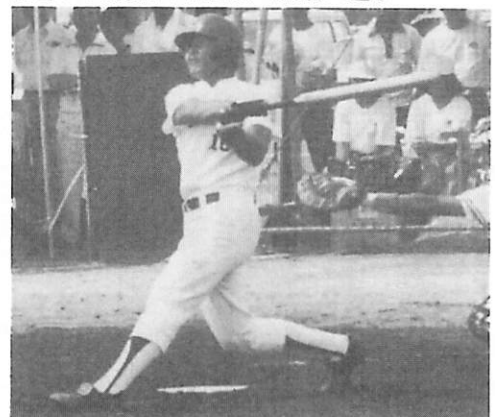
吉野みね子監督談

今年のチームは特別な力量もなく、選手も小粒ながら、それぞれ与えられた範囲内（の働き）で存分に力を出している。チームワークとともに、選手の良い面が発揮され、大会新記録が生まれたものと思う。

幻のホームラン

8月21日第1試合、日本体育大学対中京大学戦で、4回裏二死走者二塁、原浩二選手のレフトポール頭上のホームランボールは、ボールの高さの遙か5メートル上空を飛んだため、邪飛と判定。観衆全員「幻の本塁打」と佇む一場面があった。

投打に大活躍の中京大・原浩二選手



レポーター

第2回全日本ママさんスローピッチ大会

昭和63年8月7日(日)～9日(火)
香川県坂出市・県営番の州球場

香川県ソ協広報委員長 中平 順
(大会記録及び報告は前号掲載)

開会式、日本協会常務理事・竹下勝美氏あいさつ

開会式であいさつを述べる竹下氏



竹下氏はあいさつの中で、「完成となった素晴らしい世紀の瀬戸大橋架橋のもとで、楽しくプレーすること、特に『ファイト』『フェアプレー』『フレンドシップ』の3Fを心掛けて頑張ってください」と訴えられ、また、この記念す

べき日（8月7日）に誕生日を迎えられた方、及び会期中に誕生日を迎えられる方々のために拍手を促された。

さらに、ソフトボール種目の北京アジア大会参加決定、次期オリンピック

優勝!! 坂出レディース(香川)

★高木弘子監督談話

第2回大会がここ、坂出市で開催され、そして「坂出レディース」が優勝できて大変嬉しいです。

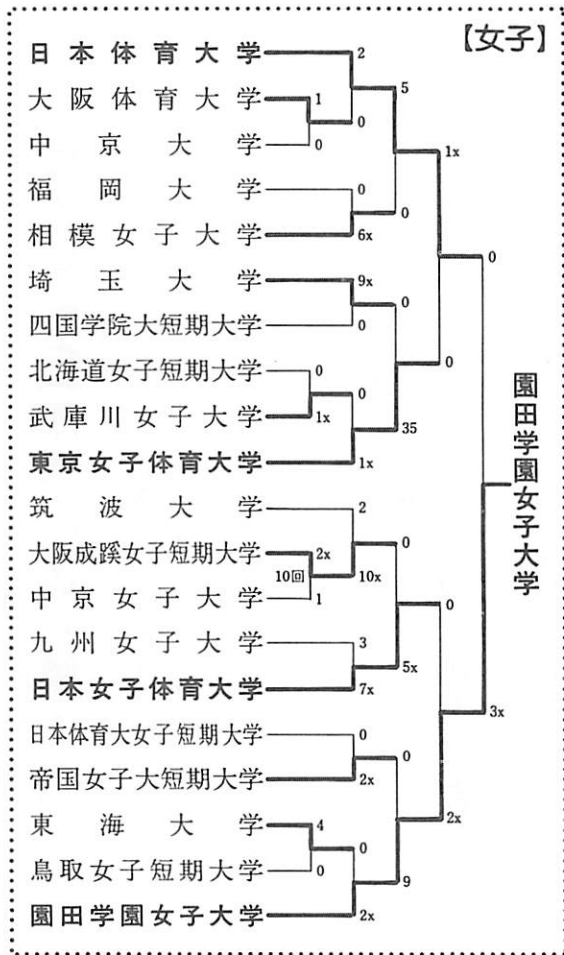
皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

優勝はチーム全員が一致協力して頑張ったことにあります。私はいつも仲間、「お母さんが懸命に努力することは、何より子ども達によい教育となる

種目への発展について紹介され、ますますソフトボールの連帯の輪を広げられることを希望され、最後に競技団体関係者へのお礼の言葉を述べられた。

ので、家庭、仕事にプラスして練習の場でも精一杯努力して下さい」とお願いしております。その努力の結果が今回の勝利であり、成果であると思えます。

また、幸いにも健康に恵まれ、家庭をはじめ皆様の温かい応援、支援のもとに、頑張ることができたことは、素晴らしいことだと思います。



個人表彰

☆最高殊勲選手
 深澤仁恵 (園田女子大)
 防御率 0.000、2勝0敗
 投球回数 12回

打席 44、打数 42、被安打 8、被
 犠打 2、与死四球 0、奪三振 1、
 失点 0、自責点 0

☆最優秀打撃賞
 桑原 愛 (東女体大)
 打率 0.583 (12打数 7安打)

☆最優秀投手賞
 香川経子 (園田女子大)
 防御率 0.368、2勝0敗

☆優秀選手賞
 梅崎明美 (園田女子大)
 里見尊子 (日体大)



選手宣誓は地元九州女子大学主将・神田昌子選手

今回の大学選手権大会に参加した選手とコーチを対象に、審判技術コンテストが行われ、32名(うち女子9名)が出場して技量を競った。

コンテストは、規定演技「プレイボール」から「ゲームセット」までの9項目について、判定動作、発声などを1分間ずつ展示した。

どの「審判員」もチームメイトの声を背に受けながら汗びっしょりになって、ユーモアのある得意のゼスチュアを見せた。後輩や観衆の歓声を浴び、審査は加藤宗司氏、久保田守氏、東

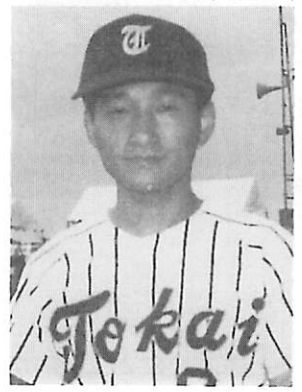
大学生審判コンテスト



トピックス

レポート 長縄雅誠

審判コンテスト最優秀選手賞、河手貴選手(東海大)



- ▼最優秀選手賞 河手 貴 (東海大)
 - ▼優秀選手賞 ②越川正広(国士館大)
 - ③坂野峰子(東女体大) ④松井由美子(同) ⑤高橋公志(九州東海大)
 - ⑥井手善之(中央大)
- 村楨夫氏(以上日ソ協技術委員会)と水野信義氏(大学連盟)の4氏によって行われ、次のとおり成績優秀者を日ソ協より表彰した。

